



霞台小だより

ひばり

令和6年1月31日発行

青梅市立霞台小学校

校長 佐藤 広明

No. 690

節目のときを迎えて

副校長 木下 一朗

「冷ゆることの至りて甚だしきときなれば也」といわれるこの時期、今年は例年に比べれば暖冬ですが、寒さの厳しい日が続いています。しかし、窓から入る太陽の光が何かしら輝きを増してきたり、木々の芽が「もう少し暖かくなれば、芽を吹くぞ。」と語りかけたりしているように感じます。

さて、2月3日は節分です。「節分」は本来、季節の移り変わる時の意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前日を指しています。その中で立春が1年の初めと考えられることから、「節分」といえば春の節分を示すものとなってきたそうです。また、節分に「豆まき」をされるご家庭もあるかと思います。節分に豆まきをするのは、季節の変わり目に邪気が入りやすいと思われていて、新しい春を迎える前に邪気を払って幸福を呼び込むために宮中祭祀として行われていたものが始まりだそうです。

私たちの心の中にいる「後先を考えずに行動してしまう鬼」や「自分だけがよければよいという鬼」。そんな鬼をがんばって退治し、みんなが幸せな一年になることを願っています。

ところで、節となる時や事柄を「節目」といいます。新しい年がスタートして1ヵ月が経ちました。3学期、2月は、子供たちにとって、次の学年や中学校への進級・進学のための4月という節目を迎えるための心構えをつくる大切な時期です。

子供たちには、これまでの自分、今日からの自分、そして、4月からの自分、それぞれの自分の姿をはっきりとイメージしてほしいと願います。人が成長するとは、過去・現在・未来の自分を意識できるようになるということです。そうすれば、生きていく中で出会う様々な人や出来事に柔軟な対応ができたり、失敗もするけれど立ち直ったりすることも早いと思います。

最後に、今年の干支は辰（たつ：龍）です。十二支の動物で唯一、伝説上の生物である霊獣の龍。古くから日本でも、水や海の神として祀られ、「龍が現れると何かおめでたいことが起きる」と考えられていました。

子供たちの新たな節目が「おめでたいことが起きる」節目となりますよう、これからも、これまで同様、ご支援・ご協力いただければ、幸いです。